

## 第3回吹田市総合計画審議会

開催日時 平成16年1月22日(木)午後2時00分～午後4時30分

開催場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

議事内容 (1)吹田市第3次総合計画基本構想(素案)の検討

第1章 総合計画の策定の背景 および 第3章 人口と都市空間

第2章 吹田市の将来像

(2)部会の編成について

出席者(委員)石森秀三 浜岡政好 宗田好史 和田葉子

生野秀昭 木村 裕 倉沢 恵 神保義博 寺尾恵子 野村義弘

筏 隆臣 蒲田雄輔 鮫島 匡 前田武男 矢野隆司 山口克也

安達憲夫 伊東利幸 尾高榮次 河井明子 阪口善次郎

永田昌範 西岡昌佐子 菱川音三郎

北野義幸 (欠席5名)

(助 役)清野博子

(事務局)富田企画部長 牲川企画部次長 池田総括参事 宝田参事

稲田主査 岡松係員

(傍聴人)1名

### 議事要旨

(1)吹田市第3次総合計画基本構想(素案)の検討

第1章 総合計画の策定の背景 および 第3章 人口と都市空間

(事務局より配付資料の説明)

(会長)

基本構想(素案)の修正案が示されているが、それも含めて意見があればお願いします。

(A委員)

一部の委員からお願いしていたことで、入っていないのがある。

「(1)交通の利便性」で、便利というだけでなく、不便なところもあるのを書く必要がないのか。

吹田の大阪府や近畿圏での位置づけはどこに入るのか。「(2)都市の二面性」の辺りに要るのでは。大阪市との関連がない感じがする。大阪市との関係をもう少し付け加えた方がいいのでは。

「(3)充実した文化・学術・研究環境」で、万博等が出て、「整備された」と良い方向

ばかりだが、万博内の施設等が減っていくことへの危機意識がどこにもないので、入れる必要があるのでは。

「(5)地域ごとに異なる特色」で、緑を守るべきだと言っていたが、今ある緑が減らされる現状がある。例えばニュータウンの緑地を府が売却することを考えているらしく、それに対する危機感も必要かと思う。

(会長)

交通の利便性だけでなく不便性について付け足す必要性、大阪市との関係や大阪府の中での吹田の位置づけ、万博の施設の減少と緑の減少に対するある種の危機意識に触れる必要があるとの指摘を受けた。これに対しての意見もしくはその他の意見をお願いする。

(B委員)

今後の議事の進め方として、個別意見はすぐに取扱い、次の修正案として文章を入れるのか。この審議会で相対的に整理をして入れると決めないと、次の時にバラバラになる。その整理を今のうちにしないといけないと思う。

(会長)

指摘の通りである。個別の意見を集積するとほとんど論にならないということがある。今の問題点について何か意見があるか。

(C委員)

基本的に1人が発言し、反対意見が出ない時は、大体委員の皆さんはそうのように考えていると思う。特に問題があれば、その時に発言して討議し、できるだけ反映するように事務局に修正してもらいたい。

(B委員)

事務局から素案の一部修正案が出されたが、線引きしている一部修正案は個別意見が全部入ったという意味で良いのか。それとも審議会で議論した上で、この修正案が今回反映されるとすれば良いのか。修正案を私は全て認めていない。その時に反論しなければ、正しいとしてこれを入れる取扱いになるのか。

(会長)

それぞれの意見には多様な面があり、事務局の方で重要と思われる点は修正を加えている。一行一行1つの文言について挙手で賛否を問うような時間的余裕はない。不都合があると判断する場合には遠慮なく意見を言ってもらいたい。それが妥当ならば修正を加える。本日が最後の審議ではない。A委員から意見があった点を含み、危機意

識が少し欠如している面もあり、その記載は必要だと思われる。

( D 委員 )

事務局から市民の意見も反映するという説明があったが、いつの段階で市民の意見が素案に反映されるのか。

( 事務局 )

現在市報あるいはホームページで 2 月 6 日を期限に意見募集をしている。意見をまとめて審議会に市民の意見として報告する。

( D 委員 )

市民からの意見をもとにした修正はどの時期に行われるのか。

( 事務局 )

市民からの意見を事務局が入れて修正するのではなく、審議会に市民の意見を諮り、審議会での議論により素案を修正できればいいと考えている。

( D 委員 )

市民の意見は各章ごとにまとめた形で返されるのか。

( 会長 )

現時点でどれくらい意見が出ているのか。

( 事務局 )

1 件である。

先週、市民説明会を南千里で開催した。まだ整理できていないが、直接いただいた意見もある。

素案でアンダーラインを引いているところは確定だと念押ししているのではなく、今の段階の修正である。意見を言ってもらい、市民意見も審議会の場に諮り、採用すべき意見を総合的に判断し、最終的な形に基本構想が出来ていくと考えている。

( A 委員 )

「(1)交通の利便性」には交通麻痺が出ていない。それを解消する対策として例えばパークアンドライドを検討する等の言葉を入れて頂きたい。

「(5)地域ごとに異なる特色」で「歴史的なまちなみの面影を今に残しています」とあるが、今後放置すれば失われてしまうので、その対策が要ると思う。危機感も欲しいと思われる。

「(1)少子・高齢化の進行」で、団塊の世代が高齢期を迎える時期が、いつ頃から始まり、いつ頃ピークになるかがほしい。下の方に「総合的な施策」とあるが、何か例示できないのか。

「(3)環境問題に対する意識の高まり」で、課題としてゴミ処理、民間のマンションの規制、貨物駅の移転の問題等を入れないといけない。「市内に残る貴重な自然環境の保全と回復に取り組んでいく」とあるが、これでは今まであまり取り組んでいないと思われるので「力強く」という言葉を入れると良いと思う。今の景観を守っていくことも入れた方が良いと思う。

「(4)安全に対する意識の高まり」で、ハザードマップを公開する方向で考えないといけないのでは。

「(6)地方分権の進展」で、全部吹田市内で対応しようとする姿勢が見られるが、広域で考える必要はないのか。他の都市と合併する等、比較検討することは考えられないのか。

( E 委員 )

「(3)環境問題に対する意識の高まり」で、新たに自然エネルギーの活用が 15 年先を見通すならば必要ではないか。化石エネルギーをこれ以上使うことは温暖化につながると思われる。太陽光発電や燃料電池等への移行は世界的な流れであり、吹田市でも自然エネルギーの活用に目を向けなければ、環境保全ができないことを入れてほしい。

( F 委員 )

兵庫県庁では知事のいる建物の南側の一面に太陽光発電のパネルを張っている。どの程度エネルギーの消費量に貢献しているかは別として、少なからず自然エネルギーの重要性和有用性をアピールしている。地方自治体の取組も幾分見られる。今の意見を盛り込むのは時節柄変わったことではないと思う。

( B 委員 )

A 委員が発言された、負の部分を持性に加えるべきということについて、私は賛同し難い。

( G 委員 )

総合計画としては両面を書くべきで、どのように表現するかは、会長もしくは事務局で相談し、意見を取り入れるのが良いと思う。

「(2)都市の二面性」で、8 年前に策定した総合計画では、少子化の問題、高齢化社会に向けた地域整備の問題、都市問題としては江坂地域の業務機能の集積が住居機能と業務機能の混在の招くという点で問題だという指摘があった。江坂問題は社会的な問題であるとともに、本市の主要な問題の 1 つであり、大阪市のようで良いのかという

ことがある。駐輪場の絶対数が不足しており、あふれている自転車に対して収容できる計画が立てられない問題がある。小学校のマンモス化は江坂地域で新たな課題である。人口が呼び戻されマンション建設が進んでいるが、商業施設の隣にマンションが建ち、劣悪な住環境である点が問題である。きちんと議論するべきだと思う。

(C委員)

江坂地域から選出された委員として言うが、同感する部分も非常に多い。しかし、自転車問題に対して、自転車がたくさん集まって悪いという考え方ではなく、江坂という地域に関しては自転車で来て自転車で帰っていくというように、整備を抜本的にすると考え方を切り替えて、自転車を悪者にしない方が良いという意見もある。江坂の商業施設と住宅の混在に関しては悪いと捉えるのではなく、職住接近の形であると捉えた上で、この地域に住む家庭や子ども達のための制度をきちんとし、職住接近の新たな都市の形を育てていく考え方の方が良いということが地域で議論されている。

(会長)

特性の中には、プラスの特性もあればマイナスの特性もある。良い所だけを特性として記述するのではなく問題点がある所はその両面として記述すべきという意見と、マイナス面はむしろ記述せず良い所を強調すべきではないかという意見が出ている。

(H委員)

「**2**吹田市の特性」のところはプラス面だけにして、「**3**吹田市を取り巻く動向と課題」で問題点と同時にマイナス面を書くのはどうだろうか。

(C委員)

それで良いと思う。

(会長)

特性のところでは吹田市の持つ良い面を強調し、課題のところでは様々な問題点を述べることとする。A委員から指摘を受けている点は、課題の方で記述すべきところは活用していく。

(I委員)

「(1)少子・高齢化の進行」で、総合計画の施策をきめ細かく説明するためにはある程度例示が必要ではないかと思う。子ども達の体力の向上を少し入れてほしいと前回も発言した。また、高齢者もより健康な体で生涯を全うできるための施策も必要だと思う。

( A 委員 )

「**2**吹田市の特性」と「**3**吹田市を取り巻く動向と課題」に関係して、円山町の公務員宿舎の跡地は市民にとって非常に大切なものであるということを言うておく。垂水神社の裏山と連続しており、非常に風光明媚な土地である。市内の大半が見通せる、かけがえのない貴重な場所と言える。そのような場所に、老若男女が集まり、市内を眺めながら吹田の過去を知り、それを将来に繋いでいく場所にする必要があると思う。

( 会長 )

円山町に関わる問題の提起があった。総合計画審議会として個別の課題を取り上げ議論し始めると、それぞれの主義主張の立場において非常に混乱が予想される。意見は貴重なものと受け止めるが、円山町のような個別課題については総合計画審議会の中では審議しない形とする。

( G 委員 )

民間企業等を含めた土地の跡地開発の問題というのは、まちづくりの歪みという面で非常に大きな課題である。残された社会資源に対する問題は、課題でもあり可能性でもある。やはり 1 項目起こし、残された未利用地問題として記述を加えた方が良いと思う。

( A 委員 )

私もそれが一番良いと思う。その例として円山町を提示した。

「第 3 章 人口と都市空間」で「積極的に進めるとともに、人口増加が続く地域では、環境と調和した開発」とある。この「環境」の前に「一層」等の力強い言葉が欲しい。

「**2**都市空間」「(2)拠点市街地・都市機能軸の形成」も、吹田市だけではなく、広域化にも触れるべきである。拠点市街地間を踏まえたことしか書かれていない。

「(3)人と自然の共生空間の形成」でも、今の自然を守ることもあるが、失ったものを取り返すことも書けないのか。

( 会長 )

G 委員の指摘も都市空間との絡みで取り上げることも可能ではないかと思う。

( J 委員 )

将来人口は 35 万人だが、私自身はもっと低い数字を想定していた。その低い数値にどう備えるかを人口と都市空間の課題に書いてほしいと思う。ニュータウンの人口は 2020 年から 30 年にかけて減少は非常に大きいと思う。ニュータウンは大阪の人口が急増した時に労働力が集中した。これから人口が減り産業が停滞し、住宅が余っている現状の中で真っ先に捨てられると思う。給与住宅は企業にはメリットはなく、経営上

望ましくないため、処分されていく傾向がある。低未利用地に対して国土交通省が近畿圏でも調査を行ったが、低未利用地を利用するすべは無いという問題がある。

そのような状況の中で「**1**人口」の第3パラグラフには「人口減少と少子・高齢化が急速に進む地域では、まちの再生を積極的に図るとともに」とあるが、まちの再生とは何かが、本来「**2**都市空間」に具体的に書いているべきだと思う。「(1)地域ごとの特性を生かした都市空間の形成」では「地域ごとの特性を生かしながら、市民の様々なニーズに対応できる」と書いているが、そもそもニーズが何かがわかっていない。例えば高齢者の問題では今はバリアフリーや介護が必要だということになり、皆に理解してもらえと思う。しかし、団塊の世代が10年後に高齢化を迎えるがおとなしく介護を受けているとは思えない。おそらく高齢化社会を一変させるような、より質の高い空間やより豊かな生活を求める行動ををすると思われる。その時に、ニュータウンでは人口は減り、これ以上インフラ整備ができるとは思えない。江坂も今までは栄えたが、1980年代のまちで、2010年頃には大阪の南の方が中高年が高齢した時により面白いまちになるかもしれない。そうすると、実はニーズが変わる。消費構造も、世代構成も変わり、一人暮らしも増え、中高年が増える。

かつて1970年代にまさに吹田は大阪都市圏のニーズに一番応えて良い住宅地になった。今度はそれに安住して良いわけでは決してなく、2020年には吹田は皆から飽きられた住宅地になるかもしれない。多様な都市空間とは何かを考えなければならない。自然との共生空間も丁寧に考えなければならない。

エベネザー・ハワードが20世紀初頭に「明日の田園都市」という本を書き、ニュータウンの動きが始まったが、20世紀にそのモデルは使い尽くした。今の都市計画の世界では、21世紀の都市問題は何かが問われている。そのような大きな転換点が訪れる時に、個々の問題を捉えて解決しなければならない問題もあるが、何が21世紀の吹田かを見極める必要があると思う。私は部会でそのような話を提案しようと思う。都市空間を今後議論する中で、少し多様な未来を考えたいと思う。現状だけでなく未来を見極めることは非常に難しい問題である。子どものことも、お年寄りのことも、今の問題がどうなるか判断することもあるが、20年後の問題を考えることが今の仕事である。そのような観点に立って議論するべきだと思う。

(K委員)

都市空間の問題で、お年寄りが老人施設に入ろうと思っても、なかなか入れない。保育所も足りないとの問題もある。今、誰が何を望んでいるかよって調整し、その方向に利用していくように考えるべきだと思う。

(L委員)

どうしても皆様の関心も議論も、具体論が解らないと20年先の記述は難しいということだと思う。今日の議論は基本構想かと思うが、基本計画の中身で話すことにも踏み

込んでいると思う。ここでは、基本構想のため、相当抽象化した文章にならざるを得ないと思う。

（会長）

指摘の通りである。あくまでも現在議論しているのは基本構想である。基本構想の中で個別具体のことを細かく述べるとあとが必要でなくなるため、その点のきちんとした仕分けは必要である。

（Ｊ委員）

言われた通り基本構想なので、根本的な姿勢を全体会で決める必要がある。今まで十分に成長してきたので、健やかで健康的な福祉の充実したまちをこのまま目指そうとするのか。それとも、危機感を持ち、このままの行財政の状況では健やかに暮らせないから、21世紀にはこういう新しいビジョンを作りこちらに攻めていくのだとするのか。そのいずれかということクリアできれば、その他の所は我々のような専門家もいる。どちらがいいとは限らないが、今までの議論を聞くと、「健やかにこにこ型」と「危機感型」とはっきりそれぞれ意見が違っており、それを教えて頂きたいと思う。

（会長）

いずれにしても、あくまでも基本構想だから、そういう大きな進むべき方向性みたいなものは、ある程度きちんと議論する必要があると思う。

それからもう一つは、2020年の将来人口を35万人と設定するという問題である。この人口の決定内容により吹田市の将来のアイデアも当然変わる。人口推計及び将来の人口構成も含め、できれば作業部会的なものを設け、宗田委員を中心にして、事務局が用意している資料を専門の立場で検討してもらいたい。できたら学識経験者の委員である衛藤委員、三輪委員、和田委員にお力添えをしてもらいたい。宗田委員をリーダーとしてこのような作業を進めてほしいと思うがどうだろうか。

（複数の委員）

異議なし。

（会長）

異議がないようなので、お願いしたいと思う。

（Ｊ委員）

北野委員にもご協力頂きたいと思う。大阪府の政策は人口を含めて関係があると思う。

（会長）

北野委員もお願いする。

## 第2章 吹田市の将来像 (事務局より配付資料の説明)

(会長)

「第2章 吹田市の将来像」で何か意見はあるか。

(B委員)

本当に吹田に住んで良かった、生きて良かった、将来ともに私は吹田のまちで住みたいのだという強烈なパンチをここで挿入しなければ、一生懸命基本構想を議論しているかわからない。今吹田のまちに生まれ、吹田を本当にふるさととしている人口構成は現実は何名なのだろうか。20年後は一体どれぐらいになるのだろうか。

メインタイトルだが、ごった煮みたいなメインタイトルで、「人と自然、都市と環境が共存・調和するまち すいた」というメインタイトルは、あんまり住みたくないなと思っているようなタイトルだ。もう少し伸びやかで、もう少し人にふれあうようなパンチの効いたメインタイトルを第2章できちんと述べないといけないと思う。

(会長)

将来像の文言は、現時点でとりあえずのものであり、今後皆様方の意見に基づききちんと作ろうと思う。もう一つの市民のデータは簡単には出ないのだろうか。

(事務局)

吹田市生まれの人のデータは住民基本台帳や戸籍でもわからないと思う。市民意識調査報告書の中に居住年数で50年以上が5.9%との数字は出ている。

(J委員)

少し昔から住んでいれば良いというわけではないと思う。

(B委員)

誤解を与えたかもしれない。私は吹田に生まれ育っているからどうのこうのという議論ではなく、たとえ吹田で生まれてなくとも本当にこの土地を出たくないという夢ある構想をこの将来像できちんと明確に出さなければ、早く吹田を見放そうかということになるという意味で言った。

(J委員)

まちづくり支援事業をしているが、吹田ではマンションの勉強をしようという動きが

ある。吹田の人口の3割が集合住宅であるマンションに住んでいる。そのマンションをふるさととし、そこで育った子どもが大人になっている時代が来た。一つ一つのマンションには、その住む人たちの文化がある。そのマンションを愛し、吹田を愛する人は、人を育てようというまちづくり活動を今しておられる。

このまま人口が減る中で都市経営を間違えるとマンションはただになる。しかし、上手に都市経営をして、緑豊かな環境があり、その住宅地が良いというように都市の格を上げ、大阪の北摂、北部の都市計画エリアの中でここが最高の住宅地だということを作れば、マンションの価値は高値安定である。そうすれば固定資産税をきちんと払ってくれる中額・高額所得者の方が当然住む。そうすれば市民税も増えるというようにきちんと都市経営をしないと財政は維持できないと思う。どういうまちを作るかイコールこのまちの経営戦略である。江坂に関しても全く同じことが言える。どのような商業地域あるいは業務地域としていくか整理すると、テナント料が上がればビルの経営がうまくいき、その家賃も高くなる。高値安定してスラム化を避けられるということもある。当然景観や自転車問題等、様々なことを図り、その都市施策が具体的に地価もしくはテナント料の安定につながるかを克明に見ながら操作をしないと財政は良くならない。攻めの姿勢をきちんと持った上で理想の将来像を書くことを決めないとまずいことになる。

(F 委員)

財政調整基金はどれくらい残っているのか。減債基金のようなものはあるのか教えてほしい。

(事務局)

財政調整基金は特定目的基金ではなく、非常事態に備えるお金で、平成14年度末現在で114億円ある。これは府下で人口一人当たりになると、相当残っている方である。ただし、平成14年度の財政調整基金繰入金では26億円を食いつぶし、なおかつ114億円残っている。平成15年度の臨時財政対策債が56億円あるが、これは全くの赤字特例債である。このような臨時財政対策債あるいは財政調整基金を取り崩さなければ最終的に平成18年度形式収支累計額ではマイナス333億円になるという状況である。要求ベースを素直に聞いてしまえば、平成18年度には333億円の赤字が出てくる。そうすれば、114億円残っている財政調整基金をつぎ込んでもまだ200億円の赤字になる。減債基金は吹田市にはない。

(会長)

厳しい状況であることは明らかである。20世紀においては吹田市というのは高額所得者の住むまちだったが、2020年にはどうなるかということで、何とか魅力のあるまちとして是非多くの方々に住んでもらいたいと思う。そのためにはこの総合計画で、ま

さに将来像は元気が出て、パワーアップできるようなものを考える。考えるのは皆様なので、是非将来像について意見があれば願います。

( A 委員 )

最近 10 年間で今後 30 年程度の地区別の予算を出してもらいたいとお願いしていた。市民にとって一番わかりやすいのは、小学校の通学区域や自治会の範囲だと思う。今後は財政がしんどくなるが、どのように効率的に使われているか、その結果を判断するのに要と思う。

( C 委員 )

A 委員から言われた件に関して、私もだいぶお願いをしたが、結局納得をして、地域別のデータは出してもらわなくて結構であるといった。江坂という地域は結局吹田の財布になっている。この地域から選出された委員としては、この地域は吹田市としてどのような形に育てていくかに関する投資があまりにもなされていないのではないかと聞いたかった。数字を出せば、様々な弊害が出るという説明があったため、そのこと自体はわかってもらえればその地域別のデータを出してもらわなくて結構であると伝えた。

市民意識調査の 33 ページ「吹田市に愛着や誇りを感じる場所はどこか」で 60%の方が「万博記念公園がある」あるいは「公園をはじめ、まちに緑が多い」ということがあった。これらの点が吹田市に住む理由になっているということである。「江坂の駅前にぎわっている」というのは思ったよりは少ない。つまり賑わっている都市というのはどこでもあるが、万博記念公園があり、まちに緑が多い都市というのはここしかないのが、吹田市の最大のポイントになっている。そのような意味で、私は吹田の将来像に「万博記念公園とともに生きる」あるいは「太陽の塔のまち」とか、具体的にこのような言葉を入れても吹田市民は怒らないと思う。逆に吹田の将来像がはっきりするのではないかな。

( D 委員 )

地元に住んでいる方の住民自治の立場から色々な面で吹田を作っていこうとしている部分が吹田の本当の意味での 21 世紀の課題と感じている。これから 21 世紀を踏まえた上で、吹田のありようを表現するべきではないかと感じる。人間が作る訳なので、人間の活力、人間のありようを記述しなければならないと思う。

( M 委員 )

6 つの大綱の中の「5環境を守り育てる魅力的で安全なまちづくり」で、まちづくりのマスタープランでも環境は大きく捉えられている。市民意識調査で「安全・安心なまちづくり」というのが一番にあがっている。それから言えば「安全・安心」と「環

境」はそれぞれ独立させ、7つになる形で取り上げてよいだけ、それぞれが大きな書く対象になると思う。表現は別として、環境と安全は分けてもらいたいのが私の個人的な意見である。

(H委員)

「**1**すべての人がいきいき輝くまちづくり」が少しわかりづらいと思う。全体のまとめ、もしくは括りとしていわれる。**2**から**6**については一つ一つ意味がわかるが、**1**はすごく抽象的な気がする。

(G委員)

「**1**すべての人がいきいき輝くまちづくり」は全体の基調のことではないかと思う。あとの**2**、**3**、**4**、**5**は自立・健康・文化・環境であり、活力は経済力のことだと思う。そのように理解したが、具体的な中身が出てこなければイメージがわからないため、やはり分科会で議論すれば良いと思う。しかし、論の基調として吹田は今まで多くの市民が、吹田をすばらしいと感じると同時に住みやすいと言ってきた。都市間の競争でいえば、大阪市内では深刻な若年層の空洞化があり、それに対して子育てに対する具体的補助や家賃補助等で若年層を誘致した。そうではなく、きちんと子育て支援をしながら環境が良く非常に通勤に便利な勤労者の理想のまちということで言えば、今までの総合計画が果たしてきた役割はかなり積極的な意味があったと思う。**1**の「すべての人」の意味だが、障害者も含めた全面参加や女性の共同参画の部分からみると、現在の吹田市民の中には本当に吹田市政を支える高級な住宅で固定資産税も40～50万円も払う家もあれば、むしろ税金の面だけを見るとなかなか大変だが、吹田に住むことに価値を見だし頑張る障害者もたくさんいる。障害者の方には吹田は住みやすいから引っ越して来ようという噂が出るぐらいの価値のある吹田ブランドがある。環境に良いということで引っ越してくる人、同時にいろんな障害バリアがあっても、住みやすいということで引っ越してくる人もいる。その面を見れば、非常にいろんな分野からの期待があると思う。それが総合計画の今までの到達点ではないかと思う。その点で、吹田市の将来像の中にはすべての人々が輝くような、がんばるような考え方に基調に置くのは、非常に意味のあることだと思う。それをどのように反映させるかは、これで良いのかという感じである。何か言葉が足りず、これだけでは少し意味がわからないと思い、少し付け加えてもらえればと思う。

(会長)

これは事務局が現時点で叩き台として出しているもので、あくまでも審議会で我々がきちんと作らないといけない。そのような点から皆様の議論、意見を踏まえて最良のものにしていきたい。

( K 委員 )

千里ニュータウンは緑も多く道路も広く、まちづくりとしては世界一だと思う。それを見習い近づけるように努力していけばいいと思う。若者のまちが老人のまちになったので、老人施設等が必要になってきている。それは補強していかないといけないが、まちづくりとしてニュータウンは誇れるまちだと思う。

( 会長 )

K 委員の指摘の通り、40 年前に千里ニュータウンをつくって、これは一つの大きな吹田の現在の礎になっているが、それはある程度オールドタウン化してきているのも事実で、吹田の 21 世紀を見据えてある種の都市計画の戦略とそういうような方向性にもっていく。ただ、G 委員の指摘にもあったように、必ずしも高額所得層だけを誘致するまちでは当然ないわけであり、それでも一方では厳しい財政状況もあるので、何らかの形で魅力的なまちにするには、どのような将来像を設定したらいいか。その責任はこの審議会にかかっているわけなので、是非皆様方に重ねていろいろな意見を出してもらいたい。

( 2 ) 部会の編成について

( 会長 )

前回皆様方に提案をさせてもらった 2 つの部会を設けてより密なる議論を固めてもらうということで、事務局と私の方で調整をさせてもらった結果、将来像の 6 つの柱というところをテーマにして、2 つに大きく第 1 部会、第 2 部会ということで分けさせてもらった。手元に部会の編成案があると思うが、皆様方の希望に基本的に沿える形でこのような 2 つの部会にした。第 1 部会は和田委員に部会長をお願いする。第 2 部会は宗田委員に部会長をお願いする。それで異議はないだろうか。

( 複数の委員 )

異議なし。

( 会長 )

次回の部会長としてよろしくとりまとめをお願いする。

本日の審議を終わりたいと思う。

以 上